

**2026年度AO選抜 文学部 東アジア研究学域**  
「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・朝鮮語）」

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
東アジア研究学域	33	16	10

**2. 第一次選考<ES（エントリーシート）・課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

- ① 高等学校までの学習や課外活動の中で、どのようにして東アジア地域に関心を持つようになったのか、その経緯が分かりやすく説明されているか。
- ② 東アジア研究学域での学び（教学内容）について理解しているか。
- ③ 入学後に取り組みたい研究課題が、本学域の教学内容・目標と適合しているか。

以上の3点について、適切な日本語表現で論理的に構成された書類を高く評価しました。

(2) 解答状況

多くの書類では、高等学校での東アジア地域に関連する多様な学習や活動が記載されていました。しかし、それらの学習や活動を通じてどのような問題意識や課題を見出したのか、その経緯を具体的に記していないものも散見されました。

また、本学域の学びについて十分に理解しないまま、自身の興味関心と本学域の学修内容とを削足適履に結びつける書類も散見されました。

**3. 第二次選考**

(1) 評価ポイント

第二次選考では、日本語による面接と、簡単な中国語あるいは朝鮮語の運用能力を確認しました。日本語面接では、主に次の点を評価対象としました。語学部分については後述の「(3) 試験（面接）の内容」を参照してください。

- ① 高等学校までの学習や課外活動を通して、何を学び、どのように考えてきたのかを自分の言葉で説明できているか。
- ② 本学域で学びたいことや研究したいことについて、目的や意義を自分なりに考えているか。
- ③ 上項 ①・② と自身の将来の進路や目標とを一定の関連性をもって語れているか。

以上の3点について、質問の意図を踏まえ、自身の言葉で明確に説明できた受験生を高く評価しました。

(2) 解答状況

多くの受験生は緊張した面持ちの中でも、自身の経験や考えを伝えようとしており、十分に準備をして面接に臨んでいることがうかがえました。

### (3) 試験（面接）の内容

本学域の面接では、中国語または朝鮮語の運用能力を確認しました。

具体的には、短い文章をテキストとして提示し、まず黙読してもらった後に、その内容に関する質問に中国語・朝鮮語で回答してもらいました。朝鮮語を選択した受験生には、テキストの音読も行ってもらいました（中国語の音読はしていません）。テキストの内容は、中国語は中国語検定4級よりやや難しい程度、朝鮮語は韓国語能力試験（TOPIK）2級程度の水準を想定しました。

### (4) 出題（面接）の意図

面接の目的は以下の2点にあります。

- ① 入学後に取り組みたい研究課題が、本学域での学び（教学内容）と適合しているかを確認すること。
- ② これまでの経験や思考を具体的に説明し、自身の考えを自分の言葉で伝える力があるかを確認すること。

なお、中国語・朝鮮語の運用能力については、受験生が事前に提出した検定試験等の証明書の水準と、実際の運用能力が一致しているかを確かめることを目的としたものであり、語学力の高低そのものは評価基準とはしていません。

### (5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

本学域は、これまでの学校生活や日常生活の中で、東アジアの社会・文化・歴史・文学に関心を持ち、その関心をさらに深めたいという意欲を持つ学生を求めています。これは、中国語・朝鮮語の運用能力の高さと必ずしも一致するものではないと思います。なぜ、その言語を学ぶのか、なぜ、より高い運用能力を目指すのかについて、主体的な深い思考が求められます。

また、本学域では、東アジアに対して幅広い関心をもつ学生を歓迎します。特定の領域に深い興味を持つと同時に、東アジアの社会・文化・歴史・文学など多様な分野にも広い視野を持って学んでほしいと考えています。

以上